

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月12日

上場会社名 岡本硝子株式会社

上場取引所 東

コード番号 7746 URL <http://www.ogc-jp.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岡本 毅

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役コーポレートサービス部長 (氏名) 阿部 裕

TEL 04-7137-3111

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	4,228	2.5	△443	—	△350	—	△278	—
25年3月期第3四半期	4,124	△2.7	△72	—	△71	—	△85	—

(注)包括利益 26年3月期第3四半期 △247百万円 (—%) 25年3月期第3四半期 △66百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	△17.48	—
25年3月期第3四半期	△5.35	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	6,469	848	11.9
25年3月期	6,982	1,084	14.5

(参考)自己資本 26年3月期第3四半期 768百万円 25年3月期 1,011百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,558	6.9	△306	—	△240	—	△156	—	△9.78

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	15,950,540 株	25年3月期	15,950,540 株
26年3月期3Q	549 株	25年3月期	483 株
26年3月期3Q	15,950,024 株	25年3月期3Q	15,950,111 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。ただし、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	5
4. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国では、消費及び設備投資が堅調なことにより、景気が緩やかに回復を続け、ヨーロッパ地域では、各国の財政緊縮の影響があり、失業率も依然として高水準であるものの、景気は持ち直しの兆しがみられ、中国では、消費が堅調に増加し、景気の拡大テンポも安定化しつつあります。日本経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要などにより個人消費が増加し、企業収益も改善するなど、回復基調が継続しております。

データプロジェクターの販売が、アメリカのビジネス向けを中心に好調なため、当社グループのプロジェクター用反射鏡及びフライアイレンズへの需要は回復しました。

フライアイレンズについては、前期に増床したクリーンルームでの蒸着数が増加するとともに、面取り機導入により研磨工程の加工数量も増加したものの、これを上回る急激な受注増加により、外注への依存量が増えてしまいました。また、成型の炉についても専用炉では間に合わず、一部製品について他の炉での生産で対応いたしました。成型条件の確立により、歩留りは回復いたしました。このため、フライアイレンズは、当第3四半期連結累計期間において、売上損失となりました。フライアイレンズの採算性の回復が、当社グループの経常利益の黒字化への喫緊の課題であり、外注費削減と歩留り向上などによる原価低減策と適正価格への交渉を進めております。

フライアイレンズの製造設備について交付された国内立地推進事業費補助金(国庫補助金)111百万円を特別利益に計上し、当該設備について固定資産圧縮損92百万円を特別損失に計上いたしました。

ガラス偏光子は、これまで、プロジェクター向けに供給しておりましたが、今後は、センサー向けなどに用途転換していきます。このため、稼働率の大幅な低下が見込まれる製造設備につき、減損損失25百万円を特別損失に計上いたしました。

フリット(ガラス粉末)は、新規開拓を始めとして試作から量産へ向けて全社を挙げて取り組んでおります。

資産効率化のため、ガラス溶融炉の建設などに備えて所有していたプラチナ地金のうち、当面使用しない分を売却したことなどにより、固定資産売却益は84百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の連結業績は、売上高4,228百万円(前第3四半期連結累計期間比2.5%増)、経常損失350百万円(前第3四半期連結累計期間の経常損失は71百万円)、四半期純損失278百万円(前第3四半期連結累計期間の四半期純損失は85百万円)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①照明事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は589百万円と前年同期と比べ46百万円(7.4%)の減収となり、セグメント利益(営業利益)は53百万円と前年と比べ5百万円(8.9%)の減益となりました。LED照明向け製品の販売が引き続き好調でした。自動車用ヘッドレンズ・フォグレンズは、ガラス製品への需要の漸減傾向が続いており、販売数量が前年同期比で25.8%減少し、売上高は17.2%減少いたしました。

②光学事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は2,881百万円と前年同期と比べ78百万円(2.8%)の増収となり、セグメント利益(営業利益)は112百万円と前年と比べ204百万円(64.6%)の減益となりました。

プロジェクター用反射鏡は、販売数量が前年同期比で4.5%減少し、売上高は12.5%減少いたしました。

フライアイレンズは、販売数量が前年同期比で51.4%増加し、売上高は54.2%増加いたしました。受注急増による外注加工費の増加と成型工程の歩留り低下などにより採算性は大きく悪化いたしました。成型条件確立による歩留りの回復などの対応策の効果は次第に現れております。デジタルシネマ用映写機の反射鏡の販売は、先進国でデジタルシネマ上映システムの導入がピークを過ぎているため、減少いたしました。

③機能性ガラス・薄膜事業

当第3四半期連結累計期間の売上高は94百万円と前年同期と比べ32百万円(51.9%)の増収となり、セグメント損失(営業損失)は76百万円と前年と比べ64百万円(前第3四半期連結累計期間のセグメント損失は140百万円)の増益となりました。プロジェクター用ガラス偏光子の販売は増加いたしました。

④その他

当第3四半期連結累計期間の売上高は662百万円と前年同期と比べ39百万円(6.3%)の増収となりましたが、セグメント損失(営業損失)は260百万円と前年と比べ194百万円(前第3四半期連結累計期間のセグメント損失は65百万円)の減益となりました。紫外線波長域の反射鏡の販売は増加いたしました。市場開拓中であるフリットなどは製造固定費の増加を売上増で吸収できず、加えて、研究開発費の増加により営業損失は増加いたしました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末と比べて513百万円減少し、6,469百万円となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ23百万円の減少となりました。この主な要因は現金及び預金が31百万円減少、受取手形及び売掛金が211百万円増加、商品及び製品が88百万円減少したこと並びに流動資産その他が106百万円減少したことなどによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ490百万円の減少となりました。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べ513百万円の減少となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ95百万円の増加となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金が217百万円増加、未払金が46百万円減少したこと並びに流動負債その他が50百万円減少したことなどによるものであります。

固定負債は前連結会計年度末に比べ372百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が319百万円減少したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は277百万円の減少となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べ236百万円の減少となりました。この主な要因は、利益剰余金が278百万円減少したことなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成25年11月12日に公表いたしました平成26年3月期の連結業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度及び当第3四半期連結累計期間に継続して営業損失を計上しており、当第3四半期連結累計期間において重要な営業損失(443百万円)を計上しております。また、当社グループの借入金の一部について、連結会計年度の経常利益額、連結会計年度末の純資産額、事業年度末の当社の純資産額に係る財務制限条項が定められており、当連結会計年度末において財務制限条項に抵触することが見込まれます。当該状況により、継続企業の前提に関する重要事象等が存在しております。

①フライアイレンズの採算改善

当社グループへのフライアイレンズの発注増加は著しく、生産能力増強が間に合わない中で、専用炉以外でのガラス基板の生産と外注加工で対応したことで、フライアイレンズで大きな売上損失が生じたことが、営業損失の最大の原因であり、生産性の向上、外注管理の徹底、製品単価の適正化等により採算性を回復させていきます。

(I)生産性の向上

(i)良品率の向上

フライアイレンズの受注増加に対応するために、フライアイレンズの成型を専用炉であるC4炉に加えて、一部の品種について、他の製品も生産しているC5炉に振り替えております。C5炉でのフライアイレンズの成型条件の確立により歩留りは回復しつつありますが、引き続き歩留り改善を進め、製造原価の低減を図ります。

また、蒸着工程では蒸着条件の一層の安定化により、歩留りの更なる向上を図ります。

(ii)内製化の推進

増設した自動スクライブ機で、フライアイレンズの切断工程の内製化率を向上させることにより製造原価の低減を図るとともに、研磨工程についても増設した面取り機により、内製化率を向上させるなど製造原価の低減を図ります。

(II)外注管理の徹底

外注管理の徹底により外注先での歩留り向上、外注単価の低減等を図ります。

また、生産計画の再構築を図り、外注数量の適正化を目指します。

(III)製品単価の適正化

上記の徹底した原価低減を図るとともに、得意先には、適正価格への改訂のお願いをいたしております。

②フリット事業の早期立ち上げ

新規事業であるフリット事業については、既に試作出荷をしている案件について、量産受注につなげていくことで、着実に売上高を増加させていき、事業の早期立ち上げを図ります。

③金融機関との取引関係の維持と財務制限条項への対応

上記の収益改善の施策を実行し、着実に改善の実績を出していくことにより、金融機関の支援体制の維持を図ってまいります。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	383,702	352,665
受取手形及び売掛金	794,497	1,006,415
商品及び製品	484,300	396,162
仕掛品	312,692	302,666
原材料及び貯蔵品	70,378	71,317
その他	223,394	116,454
貸倒引当金	△5,016	△4,970
流動資産合計	2,263,950	2,240,711
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,614,867	1,504,107
機械装置及び運搬具(純額)	1,378,615	1,270,318
土地	708,614	708,614
リース資産(純額)	274,031	211,587
その他(純額)	507,402	275,438
有形固定資産合計	4,483,531	3,970,066
無形固定資産	9,910	7,615
投資その他の資産		
投資有価証券	131,392	159,687
その他	93,874	91,156
貸倒引当金	—	△144
投資その他の資産合計	225,266	250,699
固定資産合計	4,718,709	4,228,381
資産合計	6,982,659	6,469,093
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	337,801	555,572
短期借入金	232,000	198,865
1年内返済予定の長期借入金	480,441	522,627
リース債務	95,665	96,940
未払法人税等	20,007	7,098
賞与引当金	45,877	22,463
未払金	286,549	239,867
その他	241,525	191,474
流動負債合計	1,739,869	1,834,908
固定負債		
長期借入金	3,594,923	3,275,680
リース債務	298,097	225,223

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
退職給付引当金	216,863	230,124
資産除去債務	35,783	37,307
繰延税金負債	11,781	16,918
その他	500	500
固定負債合計	4,157,950	3,785,754
負債合計	5,897,819	5,620,663
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,762,390	1,762,390
資本剰余金	1,361	1,361
利益剰余金	△787,498	△1,066,281
自己株式	△380	△391
株主資本合計	975,873	697,078
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	26,938	45,418
為替換算調整勘定	8,245	25,960
その他の包括利益累計額合計	35,184	71,379
新株予約権	27,326	29,687
少数株主持分	46,455	50,283
純資産合計	1,084,840	848,429
負債純資産合計	6,982,659	6,469,093

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	4,124,393	4,228,102
売上原価	3,444,169	3,804,894
売上総利益	680,223	423,207
販売費及び一般管理費		
役員報酬	55,254	55,467
給料及び手当	184,701	187,662
賞与	4,998	11,412
退職給付費用	7,194	8,611
減価償却費	23,940	26,235
賞与引当金繰入額	—	3,273
旅費及び交通費	30,524	36,631
支払手数料	65,793	69,322
運賃	59,657	58,307
研究開発費	104,236	150,952
その他	216,246	258,957
販売費及び一般管理費合計	752,547	866,835
営業損失(△)	△72,324	△443,628
営業外収益		
受取利息	724	386
受取配当金	4,278	4,364
為替差益	12,311	74,775
助成金収入	48,511	66,712
受取事務手数料	7,717	2,097
その他	11,586	11,611
営業外収益合計	85,129	159,949
営業外費用		
支払利息	59,030	56,223
シンジケートローン手数料	18,984	5,672
その他	6,396	5,418
営業外費用合計	84,412	67,313
経常損失(△)	△71,607	△350,992
特別利益		
新株予約権戻入益	1,329	8,401
ゴルフ会員権償還益	8,550	—
固定資産売却益	339	84,759
国庫補助金受贈益	—	111,451
特別利益合計	10,218	204,612

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
特別損失		
固定資産除却損	11,871	494
減損損失	—	25,461
固定資産圧縮損	—	92,926
特別損失合計	11,871	118,882
税金等調整前四半期純損失(△)	△73,260	△265,262
法人税、住民税及び事業税	11,973	14,913
法人税等調整額	1,565	331
法人税等合計	13,538	15,244
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△86,799	△280,506
少数株主損失(△)	△1,513	△1,723
四半期純損失(△)	△85,285	△278,783

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△86,799	△280,506
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,770	18,479
為替換算調整勘定	14,387	14,439
その他の包括利益合計	20,157	32,918
四半期包括利益	△66,642	△247,588
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△68,460	△251,416
少数株主に係る四半期包括利益	1,818	3,827

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	照明事業	光学事業	機能性ガラス・ 薄膜事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	636,421	2,802,277	62,519	3,501,217	623,175	4,124,393
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	636,421	2,802,277	62,519	3,501,217	623,175	4,124,393
セグメント利益又は損失(△)	58,931	316,510	△140,368	235,073	△65,523	169,549

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラス、紫外線照射装置に使われるエキシマランプの蒸着加工などを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	235,073
「その他」の区分の損失(△)	△65,523
全社費用(注)	△241,873
四半期連結損益計算書の営業利益	△72,324

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	照明事業	光学事業	機能性ガラス・ 薄膜事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	589,602	2,881,187	94,952	3,565,743	662,358	4,228,102
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	589,602	2,881,187	94,952	3,565,743	662,358	4,228,102
セグメント利益又は損失(△)	53,687	112,173	△76,356	89,504	△260,242	△170,737

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、デンタルミラーなどの医療向けガラス製品、洗濯機用ドアガラス、紫外線照射装置に使われるエキシマランプの蒸着加工などを含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	89,504
「その他」の区分の損失(△)	△260,242
全社費用(注)	△272,890
四半期連結損益計算書の営業利益	△443,628

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報

「機能性ガラス・薄膜事業」において、ガラス偏光子については、これまで、プロジェクター向けに供給しておりましたが、今後は、センサー向けなどに用途転換していきます。このため、稼働率の大幅な低下が見込まれるガラス偏光子の製造設備の帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、「機能性ガラス・薄膜事業」セグメントで25,461千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。